

自治会まちづくりミーティング（要旨）

- 1 自治会等の名称 鵜沼第1自治会連合会・各務自治会連合会・八木山自治会連合会
- 2 日 時 令和5年9月14日（木）19時00分～20時30分
- 3 場 所 鵜沼福祉センター 集会室
- 4 出 席 者 自治会長等 31名
市長・文化財課長ほか
- 5 内 容 ① 連合会長あいさつ
② 市長あいさつ
③ 提言による懇談
④ 市政の説明（市長）
⑤ 連合会長まとめのことば
⑥ 市長まとめのことば
- 6 提 言 （1）鵜沼地域の歴史、景観を活用した観光振興
（2）自治会活動へのDXの導入

提言（1） 鵜沼地域の歴史、景観を活用した観光振興

<鵜沼第1自治会連合会長>

木曾川を挟んだ対岸の国宝犬山城周辺は、多くの観光客が訪れ賑わっている様子がテレビなどで放映されています。なんと羨ましい限りです。

対岸の鵜沼地域にも、多くの歴史資源がありますが、これまでの中山道鵜沼宿の整備や中山道沿いの古墳群や、うとう峠から坂祝町の猿啄城までの散策だけでは、なかなか犬山城を訪れる観光客を誘導することに繋がっていません。

そこで、先ごろ広報紙で紹介された「伊木山」や新犬山橋のたもとの「城山」などにも焦点を当てた観光振興を提言します。

伊木山や城山の戦国時代の歴史研究や、その成果を鵜沼地域の観光資源に加え、木曾川を挟んだ観光資源として活用し、他市に誇れる各務原市の歴史観光拠点としてはいかがでしょうか。

また、鵜沼側から見る犬山城は、木曾川に浮かび景観も優れています。町屋館から大安寺川の遊歩道、木曾川河畔の遊歩道にも焦点を当てた観光アピールをしていってはいかがでしょうか。

<市長>

ご提案にありましたとおり、鵜沼南部にそびえる伊木山と城山（じょうやま）は、どちらの山にも戦国時代に山城が築かれ、木曾川が美濃と尾張の国境（くにざかい）に立地することから、各

務原市の歴史上の防衛拠点となり、重要な役割を果たしていました。

伊木山は、文献（「信長公記」）によれば永禄8年（1565年）に、美濃侵攻を進める織田信長によって攻め取られ、砦が築かれたとあります。今も山頂には、当時の石垣や、曲輪（くるわ）と呼ばれる砦の区画の跡が残っており、信長が生きた時代を今に感じることができます。

史料によっては伊木山城主として歴史に登場する伊木清兵衛忠次は、この信長の伊木山攻めで活躍し、「伊木」という名を与えられたとされる武将で、信長の家臣・池田恒興に仕え、池田家を生涯支えたと言われていました。

この夏には、最新の調査成果を元に、この伊木山城や伊木清兵衛忠次について紹介する看板を2基新たに製作し、伊木山に設置しました。

また城山も、同じく戦国時代に山城が築かれた丘陵であり、鶺沼城、宇留摩城、霧ヶ城とも呼ばれた城で、文献（「信長公記」）では、大沢次郎左衛門が居城したとされており、坂祝町の猿啄城とともに美濃国（みのこく）の防衛線として信長の侵攻を防いでいましたが伊木山城が信長の手に落ちると、その勢いで落城したと伝えられています。

こうした各務原市の戦国時代を広く皆様にご紹介いただくとうとう9月2日（土）～10月1日（日）まで企画展「戦国の各務原」を、中央図書館3階で開催しておりますので、信長の美濃侵攻や関ヶ原の戦いの前哨戦など、各務原市を舞台に繰り広げられた歴史に触れていただければと思います。

さらに城山は、近代、犬山橋の架橋に尽力した代議士・三輪市太郎の別荘が昭和初期に建築され、程なく料理旅館となると、戦後は進駐軍用のクラブとして使用されました。その後、城山荘という旅館が営業していたのは、皆様のご記憶にもあるのではないかと思います。

伊木山、城山とも、このようにさまざまな歴史の舞台となった場所であると同時に、国指定名勝「木曾川」の指定地でもあります。木曾川沿岸の優れた景観が評価され、対岸の犬山市（犬山城）を含め坂祝町・可児市にかけて昭和6年に指定されたもので、伊木山は「夕暮れ富士」として、また城山は丘陵のその独特な形状が、木曾川沿岸の美しい景観を形作る重要な構成要素となっています。

この美しい景観要素のひとつである、国宝犬山城は、国宝5城のうちの一つであり、現存する最古の天守を持つことで日本古来の建築美とともに天守閣から望む木曾川や夕暮れ富士の絶景を肌で感じることができ、日本人のみならず外国人観光客が多く訪れ、昨年は約45万人の入場者があったとお聞きしております。

しかしながら、犬山城を訪れる観光客を各務原市側に十分誘導するまでには至っていないのが現状です。ご提言にもありますとおり、木曾川を挟んで対峙する伊木山城や鶺沼城の存在は未だ十分知られておらず、当該地区の観光振興を図っていく上において、その存在や魅力を広く発信していくことは、大いに可能性を感じるところです。

また、犬山城の写真を撮るスポットとして、本市の木曾川遊歩道は非常に魅力的な場所となっています。各務原市は、木曾川を挟んで犬山市と隣接していることから、これまでも両市で連携しながら花火など様々な広域観光事業を展開してまいりましたが、今後につきましては、「お城」という切り口で連携を図り、空前のお城ブームにより賑わう犬山城の観光客を各務原側に誘致する方策についても、検討してまいりたいと思います。

次に木曾川河畔の遊歩道に焦点を当てた観光PRについてですが、令和3年7月に木曾川中流域周辺の歴史や景観などの魅力を国内外に発信しようと、美濃加茂市、可児市、犬山市、坂祝町、本市の4市1町の首長などが協力し、木曾川中流域観光振興協議会を設立いたしました。

昨年11月5日（土）・6日（日）には、各市町などと協力し木曾川中流域一帯でイベントを

開催しました。犬山城リバーサイド会場において、犬山朝市を開催したほか、鵜沼南町公園の河畔では、「川・お酒・グルメ・音楽」をテーマに国宝犬山城や名勝木曽川を眺めながら会話を楽しむことのできる「KAKAMIGAHARA RIVER SIDE LIFE～川辺おしゃべり Bar～」を開催するなど、木曽川中流域の魅力をPRし、多くの若者で賑わいました。その他、木曽川兩岸に咲く桜の時期をイベント開催のチャンスと捉え、犬山市と協力し、今年の3月25日（土）・26日（日）に「桜・お酒・グルメ・音楽」と兩岸を繋ぐ渡し船の定期運航、木曽川の歴史を語る取り組みとして、河畔にある常夜灯に注目し、当時の暮らしや歴史を振り返るディスカッションを企画いたしました。

この秋にも、「非日常で上質な空間を楽しむ」をテーマにしたイベントを計画しています。犬山市の協力を得て、屋形船を貸し切り、船上で生演奏を聴きながら飲食を楽しむものや、犬山橋のたもとにある鵜沼波止場で、犬山市と各務原市の両市で作られた地酒や軽食などを提供し、家族や友人と一緒に景色を眺めながら会話を楽しむものなどを企画しているところです。詳細につきましては、10/1号の広報かかみかはらなどで紹介いたします。

今後も犬山市はもとより周辺市町とも連携を図りながら、伊木山周辺の歴史とともに、名勝木曽川の景観の魅力をPRしていくことで、鵜沼地区並びに周辺地区の観光振興を図ってまいります。地元の皆様にも、ご協力いただく点が多々あると思いますので、その節はどうぞよろしくお願いいたします。

今日は、学芸員であります文化財課長が同席しておりますので、「戦国の各務原」ということでご紹介させていただきます。

<文化財課長>

各務原市は、全ての時代に渡って歴史が詰まっている地域でありまして、このような市は全国的にも少ないと思います。先ほど市長が説明したとおり、特に鵜沼地域という場所は密度が濃厚です。

各務原市の北部には、ご存じのとおり各務原アルプスと言われているような山々があり、愛宕山、八木山もそうですが山が連なっています。もう一つ注目したいのは、これらの山々から離れ、木曽川の方へ行ったところにも伊木山などが並んでいることです。城山、伊木山、陵南小学校があるところは大牧山といいます。そして岐阜基地の境に長根山、荒井山、前渡不動山がある矢熊山、西洞山、カルビー工場がある三井山と、ずっと連続しています。

今、地形に注目してみましたが、戦国時代において、この地形は非常に重要です。木曽川は、岐阜県と愛知県の県境ですが、戦国時代は美濃国と尾張国の境です。尾張の方から見ると木曽川があり、その背後に山がある。つまり、織田信長が美濃を侵攻する時など、この山の上に砦を造れば尾張を全て見渡せます。攻めてくるときも、川があることによって時間を稼ぐことができる、つまり美濃を守るために、この各務原市の木曽川沿いという地域は、非常に重要な防衛線を張れる場所であったということがいえます。

織田信長は、清洲から小牧へ移って小牧から美濃を攻めるのですが、このルートを通り、斉藤龍興の岐阜城を侵攻するのです。山を避けて西の方から向かえば近いのではという考え方もできますが、各務原の武将たちに後ろから攻撃されてしまいますので、まず一つ一つ、城を落としていくことが戦国時代の戦術です。

織田信長が、美濃で最初に城を取ったのは伊木山城です。この伊木山城に関連した人物に、スポットをあててみたいと思います。「伊木」というのは元々地元にあった地名で、当時も山の名前だったかもしれません。永禄8年（1565）に信長が伊木山城を攻めますが、この時に活躍した

武将がいて、「伊木」の地名を名前に使いなさいといわれ、伊木清兵衛忠次として名乗りを挙げたといわれています。そして信長の家臣であった池田恒興の家老になり、どんどん出世していきます。

天正12年(1584)に小牧・長久手の戦いが起きると、池田恒興は秀吉の方に味方しました。しかし、恒興は戦死してしまいます。その後、次男の池田輝政が継ぎますが、伊木清兵衛忠次は彼を大変よく補佐し、秀吉からも気に入られ、羽島の竹ヶ鼻の領地を与えられます。天正18年(1590)、池田輝政に岐阜城から三河の吉田城へ移るよう指示が出ました。伊木清兵衛忠次は同行し、田原城を任されて近くに仕えました。

慶長5年、ついに関ヶ原の戦いが起きます。この時に池田輝政は東軍として家康に味方し、池田隊は東軍の主力の一つになりました。その中で、伊木清兵衛忠次は先鋒を務め、ますます活躍します。

徳川幕府が成立した後、池田輝政は家康から兵庫県の藩播磨の国を任せられます。伊木清兵衛忠次も一緒について行き、三木城を任せられます。ここで、忠次は亡くなりますので、次の息子の忠繁が継ぎます。そして幕府の方から「姫路城を造れ」と指示が出されると、普請奉行の主導者として姫路城の建築に力を注いでいます。

今度は、幕府が全国に城を造ろうと城普請、天下普請という公共事業を発令し、この中には江戸城・名古屋城も含まれていますが、池田家を代表して息子の忠繁が、このチームに参加します。つまり伊木氏というのは、お城を造る技術に長けているということが言え、長けているからこそ敵の城を攻略する時に、その裏ワザというか戦術を得意とする立場であったのではないかと考えます。

このように伊木清兵衛忠次、つまり伊木氏というのは、この各務原で名前をとって、その名前を背負って姫路の方で活躍して幕府にも認められたということになります。そうした人物が通り過ぎていった伊木山の歴史に注目して、今後の観光PRなどに役立てたいと思っています。

提言(2) 自治会活動へのDXの導入

<山の前自治会長>

自治会における広報の配布活動は、ご近所の見守り活動の一面もあり、有意義な活動と捉えています。しかしながら、広報を配布していただく自治会役員等の方には、仕事等の関係で広報の配布活動が負担となることが現実問題として起こっているのが事実です。

そこで、全戸にタブレットを配置し、広報はタブレットで閲覧することで広報の配布活動を無くすことが出来るかと思えます。また、ご近所の見守り活動については、高齢者等に対してはタブレットで健康状態のアンケートに回答してもらうことで代替が可能であるかと思えます。また、各自治会の行事等についての回覧や連絡事項も、タブレットで確認出来るようになれば、紙での回覧は不要となるとともに、緊急、至急の連絡事項もタブレットで即時に連絡することが出来るかと思えます。

このように、各自治会自身において、情報発信が出来る手段があれば、各自治会での創意工夫が必要ではあるが、自治会活動の活性化に繋がれる可能性があると考えます。

この自治会活動の活性化についてですが、現状、自治会活動はどちらかというと高齢者の方が中心になっているかと思えますが、若者のなかには自治会活動に興味を持っている方もみえるかと考えていますので、情報発信の仕組みを上手く活用することでこの若い方にも自治会活動に参加して頂けることも期待をしています。

一方で、タブレットの全戸配布は正直困難かと思っています。しかし、近い将来、高齢者の方

でもスマートフォンを使いこなす時代が来るかと思われます。例えば、少なくとも各自治会自身が情報発信出来る仕組み（各自治会専用のホームページ、スマートフォンアプリなどのプラットフォーム）があれば、自治会の中には創意工夫して、自治会活動の活性化に繋げるところも出てくると考えることから、自治会活動のDX化に行政の支援をお願いしたいと思っています。

<市長>

自治会は、市民生活に最も身近なコミュニティであり、地域の防災、防犯、福祉、環境美化など様々な面において連帯感を高め、地域を支える基盤となる活動を展開するなど、非常に重要な役割を担っています。市と自治会は車の両輪の関係で、自治会はなくてはならないと考えています。

一方で、自治会加入率は、年々、減少傾向にあり、また、役員の高齢化や担い手不足といった課題も顕在化しているところです。

今後も、こうした地域コミュニティの弱体化が進めば、活動範囲の縮小や停滞に陥るリスクが高まるだけでなく、防災や高齢者・子どもの見守り、居場所づくりといった共助の取組が地域ニーズに十分応えられなくなる可能性もあり、地域コミュニティを維持していくことが困難な状況になっていくと認識しています。

このような中、自治会など地域活動の持続可能性を高めるための手段として、ご提言にもありますとおり、自治会活動のデジタル化が注目されており、他市においては、実証実験も含めその取組を進めている例も見られます。

地域活動のデジタル化を推進することは、各自治会での情報共有や意見交換、行政との連絡調整等において効率化や利便性の向上が期待され、役員等への負担軽減にも寄与すると考えます。

あわせて、現役世代や若者の参加促進にも効果的であり、担い手の確保や自治会加入率の向上などにつながることを期待されます。

さらに、今後、重要度が増してくる地域福祉や防災分野への貢献も期待されるなど、地域コミュニティの再構築や持続可能性を高める上で、デジタル化を進めることは非常に重要なことと考えます。

自治会をとりまく環境や住民意識が変化している中において、これまでの取組を続けていても、地域コミュニティを維持していくことは難しくなっており、これからは、時代に合った新たな取組も取り入れていかなければならないと考えています。

スマートフォンが普及している中において、全戸にタブレットを配布することは、莫大な予算を要する事や運用の面から難しいと考えておりますが、自治会長アンケート調査結果や他市の支援制度なども参考にしながら、現在、デジタル化の推進や支援策についての検討を進めておりますので、よろしくお願いいたします。

<山の前自治会長>

近い将来、高齢者の方もスマートフォンなどを使いこなせる時代も来ると思います。将来の自治会のDX化の支援をよろしくお願いいたします。

市政の説明

1. 「有機フッ素化合物への各務原市の対応について」

<市長>

市政の説明ということですが、この度、三井水源地から取水している水道水から有機フッ素化

化合物が検出された件の市の対応につきまして、ご説明させていただき、その後、ご質問を受けたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

まずもって、市水道の三井水源地から、有機フッ素化合物の濃度が、国の示す暫定目標値を超過している事案につきまして、公表が遅れたことにより、市民の皆様にご不安やご心配をおかけしていることに対し、深くお詫び申し上げます。誠に申し訳ございませんでした。

現在、職員には市政情報の発信強化、並びに危機管理について、改めて徹底を図っており、引き続き私を筆頭に市役所一丸となって、市民の皆様の信頼回復に全力で取り組んでまいります。

<水道部長>

それでは、配布資料に基づき説明いたします。

問題となっている有機フッ素化合物（PFOS 及び PFOA）は、動物実験では、肝臓の機能や子どもの体重減少等に影響を及ぼすことが指摘されています。人体においては、検証結果はありませんが、このことをきっかけに「発がん性がある可能性がある」とされ、国の暫定目標値として 50ng/L 以下と定められました。

この数値は、体重 50kg の人が 1 日当たり 2 リットルの水を生涯にわたり摂取しても健康に対する有害な影響が現れない、と設定された数値です。

これまで国内において、PFOS 及び PFOA の摂取が主たる要因とみられる個人の健康被害が発生したという事例は確認されておりません。

しかしながら、三井水源地における PFOS 及び PFOA の数値は、令和 2 年から検査を行っておりますが、現在もなお暫定目標値 50ng/L 以下に達しておらず、市といたしましては、一刻も早くこの目標値を下回るよう最大限の努力をしているところです。

次に、三井水源地の配水区域は別紙 1「配水区域図」の水色の区域です。各務自治会連合会につきましては、西市場水源地から配水されております。鶴沼第 1 及び八木山自治会連合会につきましては、一部の地区を除き、三井水源地から配水されておりますので、その一部の地区の詳細な地図として別紙 2 を全体図とは別につけさせていただいております。

配布資料 1 枚目の裏面にお戻りいただきまして、次に、現在の取り組みについてですが、PFOS および PFOA の濃度を低減するため、活性炭による浄化システムを整備、検証し、早期に本格稼働できるよう現在、工事を進めております。

<水道施設課長>

私からは、PFOS、PFOA への低減対策として、現在進めている第一期工事の内容と、進捗状況について説明させていただきます。資料 3 の上段の図をご覧ください。これは、三井水源地の平常時における、水道水ができるまでの流れを示した略図です。

図の左側にあります井戸は、三井水源地周辺の 13 箇所の井戸を示しており、各井戸にて汲み上げた地下水が、水源地内の赤枠で囲んである曝気槽と呼ぶ施設に集まります。

曝気槽では、設備内の上部から、雨のように水を落とし、下側からは送風機による風を当てることによって遊離炭酸という物質を除去しています。遊離炭酸は炭酸飲料などにも含まれているものと同じで、量が多すぎると苦みを感じたりすることもあります。人の健康に影響するものではありません。しかしながら、水道施設において使用されているポンプなど、主に鉄製の設備等に対する腐食性があり、設備の保護を目的に設置しているものです。

曝気処理後の水に消毒を行い水道水となり、その後送水ポンプによって高所に設置している配水池に送水された後、各ご家庭へ給水されています。

次に、下段の曝気槽を拡大した図をご覧ください。現在すすめております「第一期工事」は、既存の曝気槽に設置してある樹脂製の遊離炭酸除去補助剤の代わりに、PFOS、PFOAの低減に有効性が高いとされている「粒状活性炭」を設置するものです。右下の写真は施工前後をイメージしたものです。この工事には8月上旬に着手しており、現在は、曝気槽内にある4つの池のうち、1号池と2号池において、活性炭の設置、通水試験、水質検査などによる、設備の安全性について確認を行っています。確認が完了した際には、引き続き残りの池にも順次着手し、早期に本格稼働ができるようすすめています。

なお、1号池にて一回目の通水試験を行った際には、活性炭をとおす前と後のPFOS、PFOA濃度の検査を実施しました。結果は処理前が86ng/Lに対し、処理後では5ng/Lまで低減できたことを確認しております。未だ試験の段階ですので、各ご家庭へ給水することはできませんが、引き続き一刻も早い本格稼働を目指し頑張っております。

今お話しさせていただきました結果等につきましては、市のウェブサイトにて公表しております。また、10月1日号の広報紙においてもお知らせする予定です。

<環境室長>

地下水の水質調査についてですが、三井水源地周辺については、県と市が連携して水質調査を行いました。水源地から半径500m以内における井戸の水質を調査し、結果は令和5年9月7日に公表しました。この調査におきまして13か所の井戸で暫定目標値超過が確認されました。これを受けて追加調査として、9月11日から、暫定目標値を超過した13か所の井戸から半径500m以内の井戸の調査に着手しています。この調査結果につきましては10月中旬までに公表する予定です。

また、市内全域については市単独事業として、市の観測井戸(95か所)の水質調査を令和5年9月中に完了し、9月末を目途(もくと)に検査結果を公表する予定です。なお、防衛省の調査協力を得て、岐阜基地内にある井戸の調査についても進めております。

<水道部長>

市の取り組みや、観測したデータの結果につきましては、市のホームページにおいて「有機フッ素化合物への各務原市の対応」というタイトルで公表し、随時、更新してまいります。また、よくあるご質問については、Q&Aで掲載してまいります。一刻も早く、市民の皆様にご安心いただけるよう、全力で取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。

<八木山自治会連合会の自治会長>

説明はよく理解しておりますし、現在の対策についてもよく認識させて頂いております。

ただ、三井水源地でホームページにも掲載されていますように、8月28日の検査データだとNo.1を止めていたのですが、No.7の方のデータが高いので、したがって、そのNo.7の方を止めて、今度は、今まで止めていたNo.1を復活させるというような対応をされていますが、どちらも基準値をオーバーしています。

なぜ、変えたかということについてはデータを見る限り、直近のデータでNo.1の方が、No.7よりも低くなったということだと思います。

例えば、長野市は3年前の令和2年8月に、直ぐに公表して、直ぐに止めています。長野市は、専門家会議を設けて信州大学の先生とか、地質や井戸等の専門家を入れて検証されています。

そして、歴史を遡ってみますと、前々市長の時に大伊木町で硝酸性窒素の問題があり、現在も

その土壌は汚染されていると思います。その時に、前々市長は大変重要な問題とし、行政もこの分野については、必ずしも専門家ではないという考え方のもとに、専門家を入れてやられていました。だから今回も専門家を入れて、専門家の先生が岐阜大学にいらっしゃるかと思います。各審議会なども、専門家の先生が入っていらっしゃると同じように専門家も入れたうえで、データを検証していただいたほうが、より住民としては安心安全な形がとれるのではと思いますので、検討していく必要があるのではと思います。

それに絡めて、今回の問題についての哲学、あるいはビジョンと申しますか、理念を打ち立てて対策をされた方がよいと私は思っています。

即時を求めて、ほかの代替手段というのは分かりますが、非常時にバックアップがとれるかどうかというのは、大変重要なことであろうと思います。今回の場合に、直ぐバックアップがとれるかという、残念ながら、そういうことが難しいと思います。

具体的には、西市場に三井の水源地と同じくらいの規模の水源地があると思いますが、そこにバックアップがとれるだけのことが措置されてなかったことも、対策が後手に回った原因かと思えます。現実的にバックアップがとれないだろうと思います。

したがって、各務原台地の特徴、地形、地下水の流れ、そういったものも踏まえたうえで、ぜひ将来的な各務原市のために、これから未来を担うお子さんなどのためにも、その哲学とか理念をもったうえでの長期対策を作っていただくことが一番いいのではと、まずそれが安心を与える一番ではないかと思えます。

現在の対策とは別に、中長期的な対策をしっかりとしたビジョンのもとで作る、色々な作り方があって、その選択肢はかなりあろうかと思えます。あらゆる選択肢を排除せずに、中長期対策の場合は、それをきちっとご検討されていくのがよろしいと思いますので、将来の各務原市のために中長期対策も併せて検討していただきたい。

他にも岐阜市だとか近隣市町村との連携とか、そういったことも、その中に入ろうかと思えます。三井だけでやろうとしていることはいいですが、新たに、例えば井戸水を掘るときに、今の土壌汚染されていることは間違いありませんので、原因はともかくとして、三井の水源地で井戸を掘るといったことは誰もしないと思います。中長期対策をぜひご検討して頂ければと考えます。

<水道部長>

長野市で専門会議が立ち上がっていることや熊本市の方でも同様な問題で立ち上がっていることは承知しています。

今、一刻も早く、まずは50 ng/L 暫定目標値をクリアするまでの工事を行っています。言われたことと関連するのですが、第2期工事というものも、次に考えております。それは、今は暫定目標値となっていますが、この目標値自体も変わったりするかもわかりませんので、それに対応できるように、恒久的な施設を次の段階で考えていくということになります。

あと、三井水源地で井戸を掘るといったのは高いリスクがあります。西市場水源地で新たな水源を求めるとか、といったことは、中長期的なビジョンというか計画になりますが、そこらあたりも考えているところです。また、広域化についても検討していかなければならないと思いますが、まずは、市内できれいな水の取れる所の井戸を掘るとか、そういったことも考えていきたい。

<八木山自治会連合会の自治会長>

お考えは非常にいいのですが、中長期対策と短期の対策は切り分けて考えられた方がよろしいのではないかと思います。

通常やっぱり、まず、ビジョンに従って、先ほど、部長が言われたような、まず優先するのは直近の話だというのはよく分かりますが、中長期対策もしっかり立てたうえで、やっていかないと各務原市が4、5年で無くなる訳ではないので、未来を担う子どもたちは、ずっとこれから各務原市に住んでいいまちにしたいわけですから中長期ビジョンをきちっと立てる。

その時に、専門家をぜひ入れていただいた方が、熊本市がやられているような形、長野市なども参考にされて、専門家を入れて中長期プランを立ててやられるといいのではないかと、そのためのプロジェクトなり、そういったものも立ち上げられるといいのではないかと思います。

<施設課長>

長野市の場合ですと、地下水の有効性であったり、量であったり、そのあたりを専門家の先生を交えて検討しているということですが、各務原市の場合ですと、過去の硝酸性窒素の時に、市全体の地下水の流れであったり、流路のシミュレーションなどすでに作られたものがありますので、その時のデータを参考に地下水の流れ、例えば、三井水源地ですと1号井戸が高いわけですが、その時の流れを参考に、今後どうなりそうかと、そういったことは、私どもはデータを使用しながら検討している状況です。ただ、専門家の先生からは、この有機フッ素化合物につきましては、健康に害する影響はもちろんのこと、除去の方法とか、そういうことは、今、確実なところが示されていません。

私ども、水道施設を新設したり、更新したり、廃止したりするときは、水道の設計指針があり、それを基本として進めています。そこにも記載がない状態です。専門家の先生や海外ではある程度実績もありますので、あらゆる知見をまず収集し、検討し、その中に専門家も加わえて、一部、すでに相談させていただいている先生もいますが、今後どんどんアドバイスをいただきながら、早期に長期の対策の部分も含めて進めていきますので、よろしくお願いします。

<環境室長>

硝酸性窒素については、その後の動向については、ずっと追跡を環境部門で行なっています。市内全域の中で今回95か所をサンプリングしたわけですが、そのサンプリングをして市内全体がどんな状況にあるのか調べてみようということが、直ぐに発案ができたというのは、その当時の過去の先生方の置いて行っていただいたものをそのままPFOS・PFOAに使えることができたということで、過去そういうことをやっていたというのは、非常に無駄ではなかったと思っています。

また、そういう当時の先生方も現役を引退されていますが、そのお弟子さんになるような方と、今でも連絡が取れる状態ですので、水道部と協議しながら専門家の先生も交えた席をもうけること、あるいは、もう一つ、9月1日に市長が環境省へ要望書を提出いたしました。そのことも一つ大きな影響かと思いますが、環境省が、今、各務原市に注目しております。ご覧になった方もお見えになるかと思いますが、今朝「おはよう日本」というNHKの番組でも、このPFOS・PFOA問題が取り上げられていました。環境省がこれから各務原市も含めて、いくつかの市というか、まず、各務原市を率先してPFAS対策をとってお話も環境省サイドからいただいています。

過去の硝酸性窒素の時代から持っている水位、水質などのデータが豊富であるということが、各務原市が選定された一つの理由と思われる。将来に向けて何十年か先に、無駄にならないよう整理していきたいと思っています。

<八木山自治会連合会の自治会長>

環境室長さんが今言われたように、NHK で各務原市が取り上げられて、様々な問題指摘がなされていましたが、各務原市の取り組みをかなり注目しているというのも環境室長さん言われたとおりだと思います。

大伊木の硝酸性窒素、昭和40年代の問題ですけども、その時の資料を私も読みました。その当時の前々市長になるかと思いますが、市長と、今で言う環境室長さんとか水道部長さんにあたる方が奮闘されて解決してきたと思います。

そういう専門家を入れたデータ、あるいは記録も残っているかと思いますが、それも大いに参考にして頂くと同時に、行政目線の関心事は非常によくわかる、それから住民目線の関心事も住民の未来ということでおっしゃる方たちの関心事もよく分かるので、あるいは専門家の方の関心事、このあたりは行政目線だけではなくて、関心事についてあらかじめ、こうだというふうに決めつけるのではなくて、論点整理するときには、そういうやり方が大事なのですが、全体としてのビジョンを作るときは、あらゆるものは排除せずにビジョンを作っていくということをおやりになった方が、当時の各務原市には、そういういい歴史的な遺産があるわけですから、今回のこういう事態についても、これをいい教訓として未来に残すような対策を行っていくと、将来、未来を担う子どもたちには、かつてのPFOS・PFOAの問題で、これだけのことをやってくれたという遺産になると思いますので、ビジョンを作るときに、あまり前提条件を付けずに、立てられた方がよろしいのではと私は思います。

<市長>

会長さんありがとうございます。

専門家の意見もお聞きすることはもちろんのことではありますが、やはり災害、ここ数年、地震であったり、台風であったり、いつ来るかもしれないことから、かならず来るという認識をもって職員には常の心しておくようにといった指示を出させていただいております。

仮にですが、各務原市で今後、また水質基準項目にあてはまるものに異常が出てしまう、あるいは厚労省・環境省の方が、今回のPFOS・PFOAもそうですが、水質管理目標設定項目という分類から一ランク基準を上げたときに対応できるように、最悪の事態を想定した中長期のビジョン、プランを立てなさいという指示を出させていただいております。

そういったことから水道部・環境室が連携をし、そして、他課に渡って、様々な検討しながら将来にしっかりと残せるものを作り上げていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

市政の説明

2. 「人の活躍・まちの活気 しあわせ実感かかみがはら」

市政の概要、令和5年度新規事業については、資料配布。